①本時を構想する上でポイントとなる素地

○問題解決のための知識・技能

・数の大小を比較したり，大きい数から小さい数をひいたりする計算の仕方を理解している。

○既習とつなぐ見方・考え方

・数図カードを使って●の数で大小比較をする学習をしている。

教材研究ノート№1-A-4

≪学習問題≫

どちらの　ほうが　なんぼん　おおいですか。

≪定着・活用問題≫

授業計画･実施記録

主眼

≪学習問題≫

②見通し: すぐにいくつ多いか分からない。

→数図ブロックを並べれば，いくつ多いか分かりそうだ。

②学習課題:数図ブロックを並べて，どちらが何本多いかの出し方をお話しましょう。

１　課題とまとめを一体のものとしてとらえるには

③個人追究:数図ブロックを並べて違いに着目して求め方を考える。

④共同追究前半（解法の比較検討）

「どのやり方でも，多い数はどこになっているだろう？」

→「多い方から少ない方をとった数になっている。」

　「ひき算みたいに，多い方から少ない方をとった残りの数になっている。」

④共同追究後半（思考を深める）

「違いを出すときも，ひき算にしていいのかな？」

→「6－2＝4で，4本多いになるからいい。」

「多い数は，多い方から少ない方の数を取ったところになるから，ひき算にしてもいい。」

⑤まとめ（児童生徒の言葉で）

・どちらがいくつ多いかを考えるときも，ひき算になる。多い方から少ない方をひく。

・多い数は，多い方から少ない方の数と同じだけとったところ（部分）になる。

⑥定着･活用問題

(1)たけしくんはアメを6こもっています。おにいさんはアメを8こもっています。どちらがなんこおおくもっているでしょう。

(2)7は3より□おおい。

＜本時の展開に当たっての留意点＞

・個人追究では，2つの数量を1対1対応させて多い部分を見つけ，数図ブロックを動かす活動をさせることで，求差もひき算の立式ができることに気付けるようにする。

・共同追究では，上下に並べたり重ねてみたりして，大小を比較させながら共通部分に目を向けさせ，差はどの部分になるか意識させていくことを大切にする。